



「図書館へ行こう！」

プロジェクト成果報告会

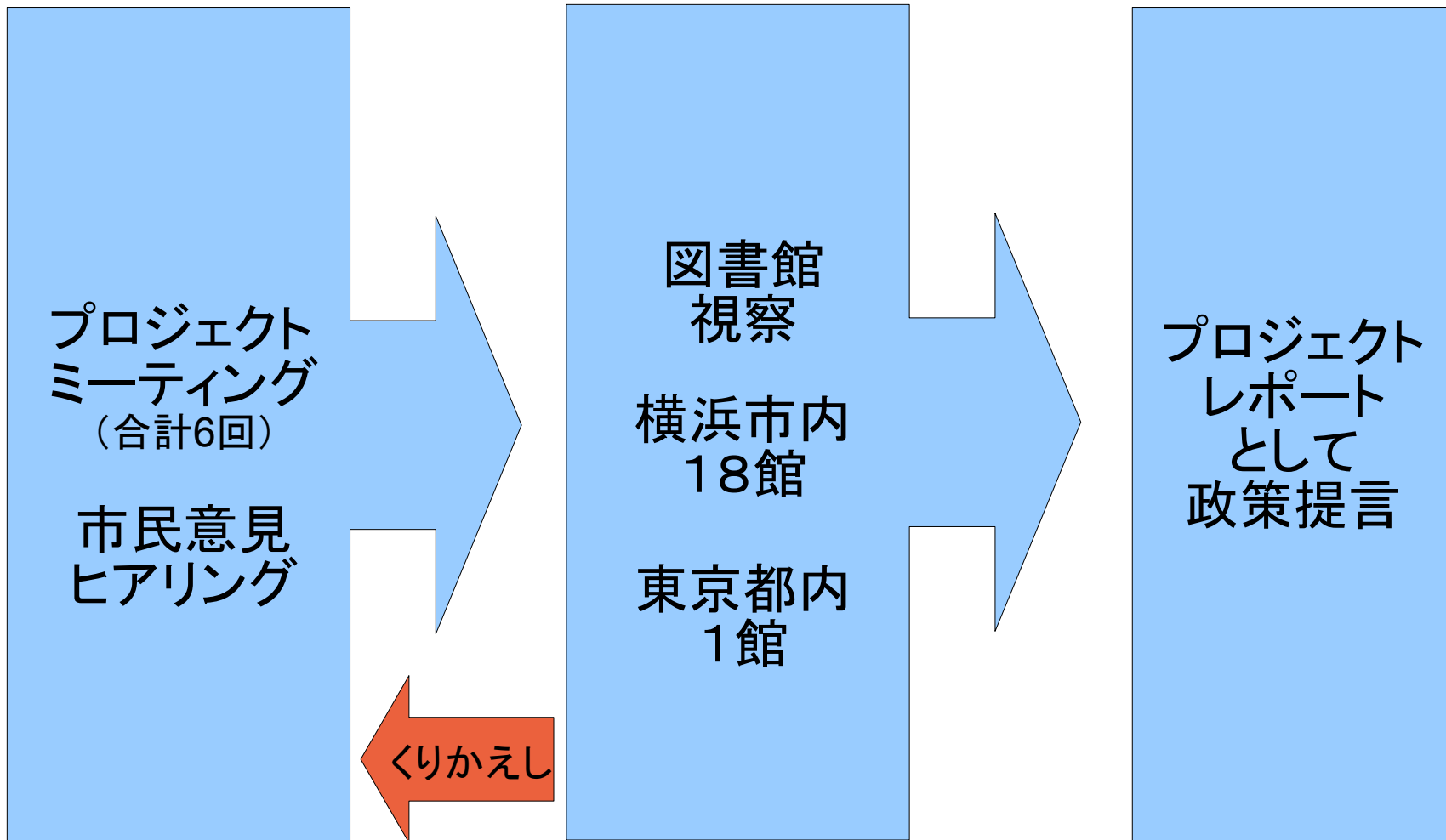
平成20年12月9日

「図書館へ行こう！」プロジェクト・チーム

「図書館へ行こう！」プロジェクト

- プロジェクトの目的
 - **図書館の活性化**に向けた政策を**提言**すること
- プロジェクト・メンバー
 - 酒井 誠
 - 鈴木太郎
 - 関 勝則
 - 山下正人

プロジェクトの構成





仮説的な問題意識(1)

- 図書館の機能が十分に利用されていないのではないか。例えば、レファレンスの利用は限定的ではないだろうか。
- 図書館側からの情報発信は十分とは言えないのではないか。図書館のことをよく知らない市民は多いと感じる。
- 情報化社会化していく現代においては、図書館から産業、ビジネス、コミュニティなどが創出されていくべきではないか。



仮説的な問題意識(2)

- 図書館に対する**市民ニーズ**は、**案外、高い**のではないかと。
- 市内18館の**立地**によって図書館の現状に差があるのではないかと。
- **学校図書館**との連携は上手くいっているのだろうか。
- **蔵書、選書**は体系的に行われているのだろうか。
- **利用者のモラル**は守られているのだろうか。



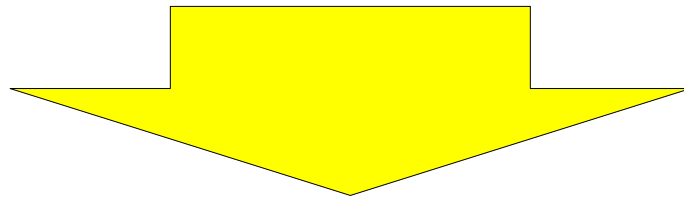
中央図書館視察の考察

- 横浜市における図書館の現状は**十分な市民サービス**が行き届いているとは言えない。
- 図書館の充実に向けて**財政措置**を期待することは難しいだろう。
- 以下の3つの柱は一際重要なコンセプトである。
 - 「**課題解決機能の強化**」
 - 「**地域情報拠点としての機能**」
 - 「**個性ある地域図書館**」



地域図書館視察の考察

- 地域館の視察に際しては、各館を見る視点が一定でないと比較考量できないので統一した視点を定めた。(3分野、合計13の視点)



- 地域館にはそれぞれの特色があるとは言えない。
- 司書の専門性が発揮されているとは言えない。
- マネジメントが上手く機能していない。



千代田区立千代田図書館視察の考察

- 地域性に沿った明確な理念
 - 体系的な理念の整理
- 指定管理者制度導入に関する検討
 - 「成果」「課題」「方向性」
- 実績
 - 平日夜10時までの開館時間
 - 従来の3.5倍に上る1日あたり約3,000人の来館者数



市民ヒアリングの考察

- 横浜市全体の**図書館行政は弱い**。360万人を超える横浜市民に対してわずか18館しかない。
- 市立図書館の**司書は質が高い**。サポーター活動、ボランティア活動を支えているのは司書の方であり、頼りになる。
- これからの横浜の図書館がどうあるべきかといった**グランド・デザイン**がない。そのため、図書館のミッションがはっきりしない。
- 指定管理者制度の導入によって、**ノウハウの継続性**が保たれない可能性があることが不安。
- 市立図書館以上に**学校図書館は貧弱**。学校司書の配置は急務。



政策提言=3つの基本目標

- **学校支援**の充実
 - 読書の恩恵は児童が一番
- **地域特性**を活かした事業
 - 特徴ある地域館
- **新たな利用者**の創出工夫
 - 図書館に行こう！



政策提言=6つの基本施策

1. 専門職である**司書の学校支援強化**
2. 中央図書館と地域図書館の**役割分担と連携強化**
3. **新たな利用者**を生み出す為の**自主事業**
4. 館長の権限強化
5. **局・区を超えた連携事業**の検討
6. 柔軟な年度ごとの**事業見直し**